

■8月26日

国交省、国内線、航空機燃料税、軽減延長方針

国交省は25日、国内線を飛ぶ飛行機の燃料にかかる航空機燃料税の軽減の延長を、2014年度税制改正要望に盛り込む方針を固めた。航空会社の税負担を軽減することで、経営支援や縮小が続く地方路線の維持につなげる狙い。

航空機燃料税の本来の税額は1キロリットル当たり2万6千円だが、11～13年度は羽田空港を発着する幹線も含め1万8千円に軽減しているほか、離島路線は1万3500円、沖縄路線は9千円にそれぞれ引き下げている。

11年度の国内の航空路線数は232で、01年度(318)に比べ3割近く減少。地方空港間を結ぶ路線など赤字の地方路線の縮小が著しい。

(北海道新聞)8/25

<http://www.hokkaido-np.co.jp/news/politics/487639.html> (-> <http://www.hokkaido-np.co.jp/news/politics/487639.html>)

国交省、新関空会社、2014年度補給金、20億円で調整、今年度の半額

国交省は、2014年度予算の概算要求で、新関西国際空港会社に支給する政府補給金として、20億円前後を盛り込む方向で調整していることがわかった。2013年度予算額40億円の半額程度となる。コンセッションが実現する2015年度には、補給金を廃止する計画だ。日刊航空が報じた。

国交省と新関空会社は、補給金に頼らない経営を実現する一歩として昨年7月、関西空港と大阪(伊丹)空港の運営を一体化。その結果、昨年度の営業利益は旧関空会社の前年度に比べて5割増の267億円と業績が改善傾向になったこともあり、国交省は補給金を減らせると判断した。

旧関西国際空港会社への政府補給金は、同社の経営安定化のために2003年度から創設。初年度から2007年まで毎年90億円を拠出してきた。2008年度は、連絡橋買い取りなどの特殊要因から計187億5,000万円を計上、2009年度には90億円に戻った。

その後、2010年度と2011年度は75億円に減額。2012年度は伊丹空港との経営統合が実現し、新関西国際空港会社が支給対象先となり69億円に減った。さらに伊丹空港との統合によって収益が安定した今年度は40億円へと減少した。

(日刊航空)8/22

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0822.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0822.htm>)

(朝日新聞)8/24

<http://www.asahi.com/politics/update/0824/OSK201308240028.html> (-> <http://www.asahi.com/politics/update/0824/OSK201308240028.html>)

全日空、岩国空港、お盆期間の利用状況、L/F91.8%

全日空山口支店は、お盆期間(9～18日)の岩国空港の利用状況をまとめた。羽田線1日4往復の平均搭乗率は、同社の羽田線全42路線のうち、北海道2路線と沖縄1路線に次いで4番目に高い91.8%(速報値)だった。

岩国発は計6125人(搭乗率90.7%)、羽田発も計6266人(同92.8%)で、10、12の両日は99%を超えた。

同支店は「利用者から岩国市街地に近く帰省に便利という声を多く聞いた。開港初年度の特需が続いている」としている。

(中国新聞)8/25

<http://www.chugoku-np.co.jp/News/Tn201308240002.html> (-> <http://www.chugoku-np.co.jp/News/Tn201308240002.html>)

タイ国際航空、A380、成田線—午前便も投入、関空は初の投入

タイ国際航空は23日、冬季スケジュールを発表した。成田―バンコク線は、10月27日から、午前便にA380を投入すると正式に発表した。A380は、ファーストクラス12席、ロイヤルシルククラス(ビジネスクラス)60席、エコノミークラス435席、計507席。

これにより、1日3便のうち、2便がA380での運航となり、成田発の旅客総座席数は一日当たり1,281席で、羽田発便と合わせると東京発は一日当たり1,656席となる。

また、関空-バンコク線は現在使用しているボーイング747-400型に変わって、午前便にA380を投入する。投入開始は、12月1日。A380は、ファーストクラス12席、ロイヤルシルククラス60席、エコノミークラス435席。関空発ではA380を利用した初の定期便の就航となる。

(タイ国際航空 プレスリリース)8/23

<http://www.thaiair.co.jp/corporate/newsrelease/#a000486> (-> <http://www.thaiair.co.jp/corporate/newsrelease/#a000486>)

タイ国営空港運営会社、7月旅客数、前年同月比15.8%増、700万人超

(NNA ASIAによると)

国営空港運営会社エアポート・オブ・タイランド(AOT)によると、同社が管理・運営する6空港の7月の旅客数は前年同月比15.8%増の715万人だった。3カ月ぶりに700万人を上回った。

7月の内訳は、国際線が15.8%増の453万人、国内線が15.9%増の262万人。

空港別では、スワンナプーム国際空港が全体で5.0%減の420万人。うち国際線は1.3%増の348万人、国内線は26.7%減の72万人だった。昨年10月に格安大手タイ・エアアジア(TAA)が発着をドンムアン空港に移転して以降、国内線を中心に旅客が減っている。

エアアジアが移転した先のドンムアン空港は全体で135万人と、10カ月連続で100万人を超えた。7月の内訳は、国際線が47万人、国内線が88万人。11年の洪水で同年10月に閉鎖された空港は、翌年3月6日に再開。同年7月の旅客数は国際線が3万2,400人、国内線が38万人だった。

(NNA ASIA)8/24

<http://news.nna.jp/free/news/20130826thb001A.html> (-> <http://news.nna.jp/free/news/20130826thb001A.html>)

ジェットスター・香港(LCC)、政府官報に認可申請が告示

(NNA ASIAによると)

香港政府の航空輸送免許局(ATLA)は23日付の政府官報に、香港政府民航処の運航認可を待っている格安航空会社(LCC)のジェットスター香港の認可申請を告示した。申請は審査段階に入ったとみられ、ジェットスター香港は「今後の審査に期待する」とした。24日付大公報が伝えた。

ジェットスター香港は同日、認可取得後の展望を発表した。発表によると、運航開始後の運賃はフルサービスエアライン(FSA)と比較して半額で、中国本土、日本、韓国、東南アジア路線を就航するという。機材を18機まで増強し、年間80億HKドル(約1,017億8,700万円)の経済効果と1,000人分の雇用創出を目指すとした。

また同日には、「マカオのカジノ王」ことスタンレー・ホー氏系の企業、信徳集団の何超瓊(パンジー・ホー)社長がジェットスター香港の会長に就任することが発表された。信徳集団はジェットスター香港に約3割出資している。

(NNA ASIA)8/26

<http://news.nna.jp/free/news/20130826hkd008A.html> (-> <http://news.nna.jp/free/news/20130826hkd008A.html>)

スクート(LCC)、「スクーティン・サイレンス」座席サービス開始、12歳以下着陸制限

スクートは、静かで落ち着いた機内を望む乗客のために、新サービス「スクーティン・サイレンス」を新たに設定、8月21日より販売を開始した。

プレミアムエコノミークラスのスクートビズ席の後ろの独立した41席の客室空間(21列から

25 列)に、通常のエコノミークラスよりさらに10cm長い89cmレッグスペースの座席を設置し、12歳以下の乗客の着席を制限した。

(日刊航空)8/26

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)